

ログライン…家族をハワイに連れていくために残業代を稼ごうとした男が、働き方改革を機に残業禁止となり、悪戦苦闘した末に別の家族の幸せを知るお話

「たなぼた」

作…えん

登場人物

山野弘 (31) 主人公。計測機器製造会社勤務、技術者

山野里実 (30) 弘の妻

山野礼 (5) 弘の長男

郷田猛 (52) 課長。弘の上司

相本悠 (24) 弘の後輩。技術者

前川達夫 (42) 弘の同僚。現場主任

その他

山野翔 (9) 弘の次男

作業者 A

作業者 B

○山野家・リビング 夜

ちらかった狭いリビング。

遅い夕食をとる山野弘(31)に長男の

礼(5)がせがむ。

礼「ハワイ、ハワイー」

弘「何時だと思ってるんだ、早く寝なさい」

妻の山野里実(30)が次男の翔(0)

に授乳しながら、

里実「礼のお友達ね、夏休み海外行く子が多

いんだってえ」

弘「うちはまだ翔がちっさいだろう」

里実「大丈夫。来月には1才なんだし、おっ

ぱいあれば泣かないからこの子」

弘「俺、まだメシ食ってるんだから。礼、8時
には寝る約束だろ。もう9時過ぎてるぞ」

礼「だって、パパ遅いもん、帰んの」

里実「うちも行こうよ。残業代で食費はまか
なえてんだし。ちよつと切り詰めて年1回
くらいパーッとさ」

礼「それとボク、パパと七夕のお願い書きた
ーい」

弘「……、わかった、わかった」

○七夕飾りの短冊に書かれた『たなからぼた
もち』から『たな』と『ぼた』を抜き出
してタイトル「たなぼた」

○新聞記事

『働き方改革を推進するための関係法
律の整備に関する法律ついに施行!』

○相葉製作所・作業場 夕方

組立中の計測機器が並ぶ作業場。

静電気対策マットが引かれた机で基板
修理している弘。時計は5時過ぎ。

弘「しゃーない、旅行のために残業代かせぐ
か。ま、これまで通ってるわけだけど」

と、課長の郷田猛(52)がパンパン手
を叩きながらやって来る。

郷田「はいはいはいはい、仕事終わってー」。

残業しなくていいからねー」

弘「え？」

郷田「どうしてもって人は申請出してねー」

○相葉製作所・事務所（日替わり）

デスクで残業申請書を書いている弘。

弘M「残業に申請してるって、どうなってんだ。

てか何回書いても却下って。マジかよ」

残業申請書を郷田に持っていく。

ジロリと申請理由『緊急な基板修理業

務を遂行し出荷日遅滞を防ぐため』を

見る郷田。

郷田「随分、高度な言葉書くようになったね」

弘「ま、色々勉強しまして……」

郷田「でも、中身は一緒だよね」

黙って、ドでかいハンコ『却下』を書

類に押す郷田。

弘M「クソッ！」

○相葉製作所・中庭のベンチ

弁当を食べている弘と後輩の相本悠（

24）。

相本「また却下すか」

弘「もうなんて書けばいいかわかんないよ」

相本「何回目っすか」

弘「お前、収入へってどうもないの？」

相本「別に。俺、あるだけで暮らすんで。こ

の頃早く帰れるから作り置きってヤツ作っ

てるんす（弁当を見せる）」

見るとお浸しや煮物が入った弁当。

弘「いいよね、ひとりもんは」

相本「プライベート重視っすから。誰かを養

うなんて俺には永久に無理っす（笑う）」

弘「さすが、ゆとり小僧！（笑う）」

○同・作業場 夕方

5時のチャイムが鳴り響く。

郷田が大きく手を叩く、

郷田「はいはいはいはい、仕事終わってー。

さっさと帰ってねー」

作業の手を止め、帰り支度をする作業者たち。隅で基板修理している弘のところに郷田が来る。

郷田「ヤマちゃん、ご苦労さま」

弘「あ、きりのいいとこまでやりたいんで」

郷田「中途半端上等！途中でいいからね。帰った、帰った」

○道 夕方

怒りながら歩く弘、

弘「くそつ、郷田のヤツ！昼間一服もしないで修理やってんだぞ、こっちは。逆に殺す気かつつうの！」

○電気街 夕方

パソコンや部品を物色して歩く弘。

弘「明るいうちから帰れねえしな」

財布を見て、札がなく、しまう。

○相葉製作所・事務室（日替わり）

弘が打っているPC画面を隣から相本が覗き込む、

相本「今度はどんな作戦つか？」

弘「改善提案だ」

相本「かいぜん？」

弘「5S活動！整理・整頓・清掃・清潔・躰。しかしここはあえて3Sといく！」

相本「へー、仕事好きっすね、先輩」

○同・事務室（日替わり）

郷田が弘の『3S活動企画書』を読んでいる。そつと様子を伺う弘、

郷田「山野くん、ちよつと」

弘「待ってましたと はい」

残業申請書を手に郷田のところに行く弘。申請理由『3S活動準備のため』

郷田「いいね、コレ」

弘「ありがとうございます」

郷田「さっそくね、やってもらおうよ」

弘「はい、早速（申請書を出そうとする）」

郷田「おーい、前川主任！」

弘「え？」

現場主任の前川達夫(42)が来る。

前川「なんですか？」

郷田「コレね、ヤマちゃんが出してくれた企画。さっそく現場で実践して」

弘「えっと、それは……」

前川「(パラパラっと見て弘に) 山野さん、ありがとうございます。早速現場ミーティングにかけます。いやあ、すごいな」

弘「えっと、そう？ あ、じゃ、よろしくね」

席でクスクス笑っている相本。

相本を睨みつけ、落ち込む弘。

○山野家・寝室 深夜

並んで寝ている里実、翔、礼。

礼(寝言)「ハワイ〜」

カップ酒片手に寝顔を見る悪酔いの弘。

里実(寝言)「パパいつもありがと〜」

弘「なんとかしねえと……(立ち上がる)」

礼(寝言)「パパ、たんざく〜」

○相葉製作所・裏口 深夜

そっと鍵を開ける酔った弘。

○同・部品保管庫 深夜

電子部品を棚から出す弘、エアキャップの袋に入れて、プラスチックケースでこする。しゃっくりする目はうつろ。

○朝陽に照らされた相葉製作所

○同・作業場 朝 (日替わり)

作業者たちの製品検査の手が止まる、

作業者A「(手を上げて) 基板確認お願いします」

作業者B「こちらをお願いします」

あちこちで手があがる。

前川「驚いて、何が起ったんだ？」

× × ×

郷田「どういことだ」

前川「わかりません」

郷田「ただの不良にしては多すぎるな」

× × ×

修理スペースに山積みされた基板。

整理している弘が不鮮明な記憶を辿っていたが、そのうちふっされる。

○同・事務所

デスクで残業申請書を書いている弘。

申請理由『緊急な基板修理業務を遂行し出荷日遅滞を防ぐため』

書いた残業申請書を持って郷田に持っていく。ジロリと申請書を見る郷田。

郷田「とりあえず、急いで修理、頼む」

弘「はい！」

○同・作業場

はんだごてを手に、次々に基板の電子部品を交換していく弘。

やつてもやつても終わらない。

× × ×

時計は1時。

郷田がやって来て黙って横に座る。

基板に手を伸ばし、修理を始める郷田。

弘「え？」

郷田「俺だってこれくらいできるさ」

弘「そういえば、そうですよね……」

郷田「二人でやれば何とかなるだろ」

弘「えっと、それはどうい……」

郷田「悪いが、残業は却下だ」

相本もやって来る。

郷田「おお、来たか。いい勉強だ。お前もやってみろ」

相本「はい。スキルアップって奴っすね」

弘M「……人海戦術か」

× × ×

修理された基板を次々と製品につけていく作業者たち。

前川「さあ、頑張って。検査までやるよ」

× × ×

『出荷可』の札がつけられた製品がズラリと並ぶ。

○相葉製作所・部長室 （日替わり）

部長(52)の前にいる郷田と弘。

部長「今回の件だが、どうも電子部品がわざと静電破壊されてたという見方があるらしくてね」

ぎくつとする弘。

部長「山野くん、修理してて何か気付かなかった？」

弘「え、いえ、そんな、なにも……（脂汗がにじむ）」

部長「うち、この前警備の契約してね、夜に部品保管庫に入った者がいるって報告があがってるんだ」

弘「(小さく) え……」

部長「(郷田に) 鍵を持っているのは誰と誰だったかな？」

弘が緊張で震えだす。

郷田「鍵を持っているのは私ひとりです」

驚く弘。

郷田「この前は、トラブった主要部品がちゃんと納入されているかどうかどうしても気になって、夜私が確認しに行きました」

部長「そうかね……」

郷田「今回のことは電子部品保管の静電気対策を徹底できていなかった私の責任です。申し訳ありません（深く頭を下げる）」

信じられない顔で郷田を見る弘。

○同・中庭のベンチ

弁当をあけずにただ座っている弘。

横に人が座る気配。

郷田「食べないの？」

弘「(驚いて) 課長!」

郷田「奥さんがせっかく作ってくれてんだろ」

弘「あの、実は……」

郷田「始末書ですんだよ」

弘「え……」

郷田「残業できないと、厳しいよな……」

弘「それって……」

郷田「カッコ悪い話なんだが、上から残業させたらリストラ対象って言われててね」

弘「リストラ？」

郷田「まだ下の子がこれから大学なんだ……、

サラリーマンは辛いよね」

啞然とする弘。

○山野家・リビング 夜

土下座している弘。

里実「なにやってんの。頭あげて。つまり、もう残業できないってことね」

弘「すまん。ハワイどころか箱根もあぶない」

里実「で、残業できないってことは何時に帰れんの？」

弘「ごめん。言えなくて時間つぶしてた……。

本当は6時間には帰れる……」

里実「じゃ、礼と遊べるね」

弘「え？」

里実「礼、喜ぶわー、きつと。それに私、6時から働けるってことだ」

弘「は？」

里実「ママ友から誘われてたの、夕方からのスーパーのレジ打ち」

弘「レジ？」

里実「実子は育てかなり煮詰まってたの、私。

つまり、残業禁止は我が家にとってはたなからぼたもちよ。ハワイは任せて」

啞然として里実を見つめる弘。

○山野家・リビング 夕方（日替わり）

急いで帰って来る弘、

弘「たたいまー」

礼「（抱きついて）パパおかえりい」

慌てて出掛ける支度をしている里実、

里実「じゃ、お夕食出してあるから、あと、パパお願いね」

弘「まかせとけて（翔を抱き上げる）」

○同・玄関　夕方

翔を抱いて手を振る弘と礼に、任せて
ちようだいと手を振り返す里実。

○スーパー店内　夜

はつらつとレジで働く里実の笑顔。

○山野家・風呂場　夜

翔と礼を風呂に入れている弘。

弘「まさか働き方改革がたなぼたとはな」

礼「たなぼた？」

弘「え、(笑って) もうすぐだな、七夕」

礼「一緒に短冊かこう」

弘「おっしや、まかせとけ」

礼「でも、ボクのお願いかなっちゃったけど」

弘「ん？　どんなお願い？」

礼「毎日、パパがはやく帰ってきますように」

(完)